

## 施設長から 期待像・将来像の見える化を

立冬(11月7日)が過ぎて暦の上の冬が到来したとたんにも本格的な冬が訪れたかのような寒気が襲ってきました。今年は、十月の長雨の後に一挙に冬モードへの突入となってしまう、いつもの過ごしやすい秋を満喫する期間が少なかったように感じます。芸北の恐羅漢では例年より一週間早く初雪が観測され、気温も普段より一ヶ月も早い数値を示しています。今年もあちらこちらでカメシの飛散が多く見かけられましたのでいつもに比べて雪深い厳冬となるのかもしれませんが。となると、家用車の冬用タイヤへの差し替えを早めに検討した方がよさそうです。めぐる季節はそれぞれの年で少しずつ在り方を変えながらも、着実に春夏秋冬の様相へと変化して時を刻んでいます。早いもので今年も残すところ約一ヶ月となりました。皆さん、年内を振り返りながら来年に向けての準備はいかがでしょう？

さて、今年の11月一日から先の衆議院議員選挙結果により、安倍晋三衆議院議員が第98代内閣総理大臣の指名を受けて第四次安倍内閣が発足スタートを切りました。衆議院解散の理由や何を目的とした新たなスタートなのか、今ひとつハッキリせず、顔ぶれも変わることがない新内閣ではありますが、いずれにしても日本国憲法下において司法・立法・行政による三権分立の基本形態が改められた節目となりました。この新政府の下で平成30年度に予定される医療・介護・障がい福祉分野の報酬改定が決められます。超高齢・少子化で人口オーナス(人口減少)のステージに入った日本において国における社会保障費の負担が重くのしかかってくることに間違いはありません。ムダ・ムラ・ムリのない方策を推し進めていく難しさはありますが、文明社会において決してなくてはならないものが社会保障であると考えます。現政権には、しっかりそのことを認識してもらいたいと思います。国政の論議の中では、「消費増税」が国民の消費意欲を減衰させ、内需が縮小し、景気が冷え込むとの意見も多くあります。が、堅実な社会保障が揺らいでしまうと先の読めない不安から消費活動を促進させようという気さえ起こらなくなります。国が「自助」を謳えば謳うほど「もしも」のための貯蓄に専念しようと考えてしまいます。もちろん今後の人口構造(生産労働人口減少)の予測から財源のことを考えれば「自助」の姿勢も大切です。きっと、年金支給開始年齢もそのうち70歳からと言われかねないでしょう。しかし、国全体の高齢化現象の中では、一生懸命に働こうとしても病気や障害のために満足いく収入が得られない人も増えてくるはずで、その時のセーフティーネット(救済機能:憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活保障」)や若者へのトランポリン機能(支援機能:たとえ課題があり制度の助けが必要となっても課題を克服して元の常態に復するための支援)は、社会保障の一環として国全体で考えていく必要があります。私見ですが、先月も述べたようにそのための財源とした消費税の社会保障目的税化は必要ではないかと思っています。地域性のある社会保障ニーズに対応するための地方税化することも「あり」かもしれません。いずれにせよ何らかの手立てで財源確保が求められます。安倍首相は第195回特別国会を受けた11月17日の衆参両院本会議の所信表明演説の中で『「少子高齢化の克服」を掲げ、そのための「人づくり改革」として「幼児教育の無償化」と「待機児童解消」によって安心して子を産み育てられる環境「子育て安心プラン」の継続を示し、どんなに貧しい家庭に育っても、意欲さえあれば、高校、高専にも、専修学校、大学にも行くことができる環境整備、そのために必要性の高い人には「高校教育の無償化」も検討しています。いくつになっても、誰にでも、学び直しと新しいチャレンジの機会を確保するために「リカレント教育(生涯学習制度、学び直し教育)」を拡充する。』ことを表明しました。こうした環境整備に力を傾注することはとても大切なことですが、環境が整っても当の本人に意欲が生じてこなければ制度は絵に描いた餅になってしまいます。制度そのものが甘い汁になって依存性を助長させるものになってはいけません。自らを向上させたい、這い上がりたいと思える社会環境の創設が必要です。達成感が味わえる就業環境や理想の自分像を具体的に見ることができなければそこに向かおうとする意欲も湧いてきません。年功序列・終身雇用を廃し、成果主義が横行する現代の資本主義社会の中で「リカレント教育」のあとに見えてくる状態の「見える化」もしなければならぬと思います。将来に向けた希望・期待像がなければ、不安を払拭するために内部留保に走るの個人も企業も同じです。たとえ消費税が今のままでも、将来に不安があれば消費活動は促進しないと考えます。現にいまの日本は、数値の上では戦後最大の上昇景気の中にいるはずですから。

世界に類を見ない人口構造の大変化は、様々な課題がのしかかってきて決して一筋縄でいかないことは理解できます。国民を守るための軍備増強もある程度の理解を示す必要もあるかもしれません。一方で、世界に類を見ない借金大国であることも事実です。健全な国家運営の下で健全な文明社会としての社会保障の在り方を聞き心地のよい言葉だけではなく、具体的なビジョンで「見える化」して示してほしいと感じます。

平成29年11月25日

”なごみの郷” 松林 克典

## 専門家の知恵

# ～インフルエンザ～



### ● インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって起こるウイルス性呼吸器感染症です。ウイルス感染後、体内で増殖をはじめ、1～3日の潜伏(せんぷく)期間を経て発症します。小児や高齢の方は重症化しやすいとされていますので注意が必要です。流行の規模は一定ではありませんが、毎年冬季の流行が懸念され、学級閉鎖の原因や高齢者施設における施設内流行の原因にもなります。

### ● 症状

悪寒を伴う38度以上の発熱に加え、頭や関節、筋肉の痛み、体のだるさを伴って急激に発症します。鼻汁、咳せき、咽頭痛などの症状や、吐き気、嘔吐、下痢などの消化器症状を伴うことも多く、筋炎を起こすと筋肉痛が生じて歩行困難になることもあります。

突然の発熱はインフルエンザのサインの可能性があります。早めに受診し、安静にしましょう。

### ● ワクチンの接種はどうすればよいか？

インフルエンザワクチンは、接種してから体内に免疫ができるまで最低2週間かかり、効果は4、5ヶ月持続するとされます。広島県の場合、例年の流行の始まりは早くも12月中頃から。1、2月にかけてピークとなるそうです。

今年はワクチンの供給が遅れていることが話題になっていて、多くの医師がインフルエンザワクチンは足りないと回答しているそうです。早めに摂取されると安心です。

※ 接種が1月上旬になったとしても1月の後半には免疫ができるので受診しましょう。

## インフルエンザ予防対策 !!



### ● 予防法

小まめに換気や手洗い、うがいをしましょう。体調の管理も大切です。体を冷やすのも感染リスクを高めることになるので適度な運動と十分な睡眠、バランスのいい食事をすると良いでしょう。鍋料理などは、体を温めて栄養も取れるのでお勧めです。

デイサービス落合 看護部 松本 照子

# 訪問介護 コーナー



急に寒くなり、冬の訪れを感じる今日この頃です。こたつやヒーター等、準備はされていますか？

さて、今月は、83歳 要介護3、女性一人暮らしの方をご紹介します。

ご自宅の庭で転倒をされ、腰椎圧迫骨折で入院をされていました。退院後も、まだ腰に痛みがあり、立ち上がりや歩行が困難なため、朝と夕方に毎日、食事の配膳、バット交換、掃除のケアを提供する事となりました。けれども、バット交換時には、「さっき、自分でしたから大丈夫」と、断られます。そんな時は、無理をせず、色々なお話をします。以前、社交ダンスをしておられたそうで、部屋には青や真っ赤の華やかな衣装ドレスが掛けてあります。お話を伺うと、ご主人との馴れ初めも社交ダンスがきっかけで、「私の方が先にダンスを習っていたの〜」。最初に知り合った時は、私が主人にダンスを教えてあげたのよ」と、その時の事を、笑顔で少し恥ずかしそうに話され、とても仲の良いご夫婦だったのだと伝わってきます。そんな話をしている内に、段々と落ち着かれ、その後のケアも快く受け入れていただけます。

優しかったご主人が亡くなられ、お一人で寂しく不安な時があると思います。その気持ちに寄り添い、安心して笑顔で過ごしていただけるよう、これからも、お手伝いをしていきたいと思ひます。



なごみの郷訪問介護事業所  
友村 由起

# 12月のお誕生者さま

氏名	生年月日	年齢	地区
柴田 千鳥 様	昭和 11 年 12 月 1 日	81 歳	落合
吉田 スズ子 様	昭和 3 年 12 月 2 日	89 歳	落合
溝口 静子 様	昭和 4 年 12 月 4 日	88 歳	落合
東 武子 様	昭和 18 年 12 月 6 日	74 歳	落合
池田 守彦 様	昭和 12 年 12 月 6 日	80 歳	落合
竹内 ミツコ 様	大正 14 年 12 月 6 日	92 歳	落合
二宮 俊子 様	大正 11 年 12 月 6 日	95 歳	落合
村本 三千世 様	昭和 9 年 12 月 7 日	83 歳	落合
野口 尊江 様	昭和 4 年 12 月 8 日	88 歳	落合
坂本 敏子 様	大正 15 年 12 月 10 日	91 歳	落合・可部
新田 勝人 様	大正 12 年 12 月 10 日	94 歳	落合
馬久地 博永 様	昭和 9 年 12 月 12 日	83 歳	落合
田中 幸子 様	昭和 7 年 12 月 13 日	85 歳	落合
市村 シズ子 様	大正 9 年 12 月 15 日	97 歳	落合・可部
申 平植 様	昭和 4 年 12 月 15 日	88 歳	落合
梅津 文子 様	昭和 5 年 12 月 20 日	87 歳	落合
富山 哲英 様	昭和 4 年 12 月 23 日	88 歳	落合
佐藤 菊美 様	大正 14 年 12 月 1 日	92 歳	可部
佐々木 千代 様	昭和 7 年 12 月 21 日	85 歳	可部
上野 ヨシエ 様	昭和 13 年 12 月 25 日	79 歳	可部
松本 好美 様	昭和 8 年 12 月 17 日	84 歳	亀山



お誕生日おめでとうございます。  
これからもみなさんますますお元気で!!



## あとがきではないけども・・・

12月、師走、ディッセンバー。春菊、小松菜、白菜、みかん、ゆず、クリスマス、イルミネーション、ケーキ、冬至、ボーナス、忘年会、大晦日・・・。挙げればきりなく、それはまるで“打ち出の小づち”・・・。だから師も走るほど忙しい一年の締めくくり。皆さまにとってこの一年間は如何なものでしたでしょうか。

さて、小生、今年も振り返るとたくさんの失敗を犯した。一度で終わればいいものを、忘れ物や勘違いなどの凡ミスやカバンを落とした大失敗など、失敗の枚挙にいとまがない。

よく考えれば人に失敗はつきものであり、それは人間の性(さが)だ。だから小生も人間なのかも知れない。ただ、回数は多かったと思うし同じ過ちを重ねたこともあった。それはいただけない。

それにしても、失敗の原因を究明しなかったり、プロセスを改善しようとしなければ、また同じような失敗をくり返すことになる。だから失敗から反省し、行動やプロセスを改めて、その結果それが成功へ導かれるように努力したつもり(?)ではあった。だから一度や二度の失敗で凹むことはない、そう考えてきた。「失敗は成功の母」と言われるからだ。

でも失敗して改善策を検討するのも大切ではあるけれど、失敗は起こるものであるとの前提で、失敗後の次の失敗に対してどう備えるのかを考えることも大切となる。

例えば、我々の業務でいえば、転倒を繰り返す入所者様がおられたとする。その方は様々な対策を施したとしても転倒を繰り返す。ならばその先の対策は、転倒しても被害が最小限で済むように、衝撃吸収マットを敷いたり、ベッド柵にタオルを巻いたりの手を打つ。要は次の事故への備えである。

世界で最も過酷で失敗が許されない職業の一つとして航空機パイロットがある。過去には墜落、不時着、離陸失敗など痛ましい事故が多数あった。最近でも某軍隊の大型ヘリコプターの事故は何度となく起こっている。一度の事故でも被害は甚大となるため、記憶に刻まれる衝撃は大きい。しかし調べたところ、世界の民間旅客機による死亡事故発生率は現在830万回のフライトに1回まで低下しているらしい。一方で一人のドライバーが一年間に自動車交通死亡事故を起こすのは2万1千人に1人の割合らしいので、航空機事故の確率は自動車事故と比較するまでもなく低いのだ。航空機事故低下は失敗に学び対策を繰り返した結果だそうだ。

ヒヤリハット(ヒヤリとする、ハツとする事故になりかねない出来事)は何百、何千とあっても、航空機の操縦にはエラーが一つ生じても、安全装置やパイロットの行動マニュアルによって何重にも挽回のチャンスが用意されている。『失敗をさせない』ではなくて、『失敗を事故に結びつけない、最悪の事態を起こさない』との発想が前提にあるのだ。何重にも確立された挽回の機会、それらは航空機産業という業界のリスクマネジメントに基づき、日々更新され続けているのである。

そんな事故防止に生かされているのはハインリッヒの法則。労働災害の発生確率に基づいて生まれた経験則で、航空の場合でも1つの事故が起きるまでには約30種類のかかなり危険なエラーがあり、その前には200～300種類のヒヤリハットが必ず発生しているという。パイロットや整備士はそうした予兆を常に探し、一つひとつつぶしていくのである。しかも、失敗の情報は経営の上層部や航空機メーカー、役所、世界中の同業他社に送られ、共有される。航空業界が失敗から学んだことは、組織や国境を超えてすべての関係者がつながっていたからであろう。

一年間を振り返った時に、自身の失敗から学ぶ成功への思考方法に思いを巡らせたのである。

皆さま、今年一年間、大変お世話になり、誠に有難うございました。心から感謝(2017年のスローガンテーマ)を表します。師走で何かとせわしい日々をお過ごしのことと拝察しますが、どうかお身体を大切に、良き新年の成年をお迎えください。きたる2018年が皆さまにとって成功にあふれる実りある一年になるよう祈念いたします。

合掌  
矢矧 秀樹 拝

## STAFF 発行所 / なごみの郷 おたっしやかわら版編集部

〒739-1732 広島市安佐北区落合南町196-1

T e l 082-841-1331

F a x 082-841-1336

U R L <http://www.nagominosato.jp>

Email [nagomi@nagominosato.jp](mailto:nagomi@nagominosato.jp)

★ 発行人 / 矢矧 秀樹

(当紙面は、個人情報保護法に基づき、掲載させていただいている個人の名前・写真などは、全てご本人様又はご家族様に了承をいただいております。)

# 元気で明るく家族と共に自立支援

～ イキイキとした生活作りをお手伝いいたします～

平成29年スローガン

## つなげよう思いやり 伝えようありがとう 感謝の心が育む笑顔